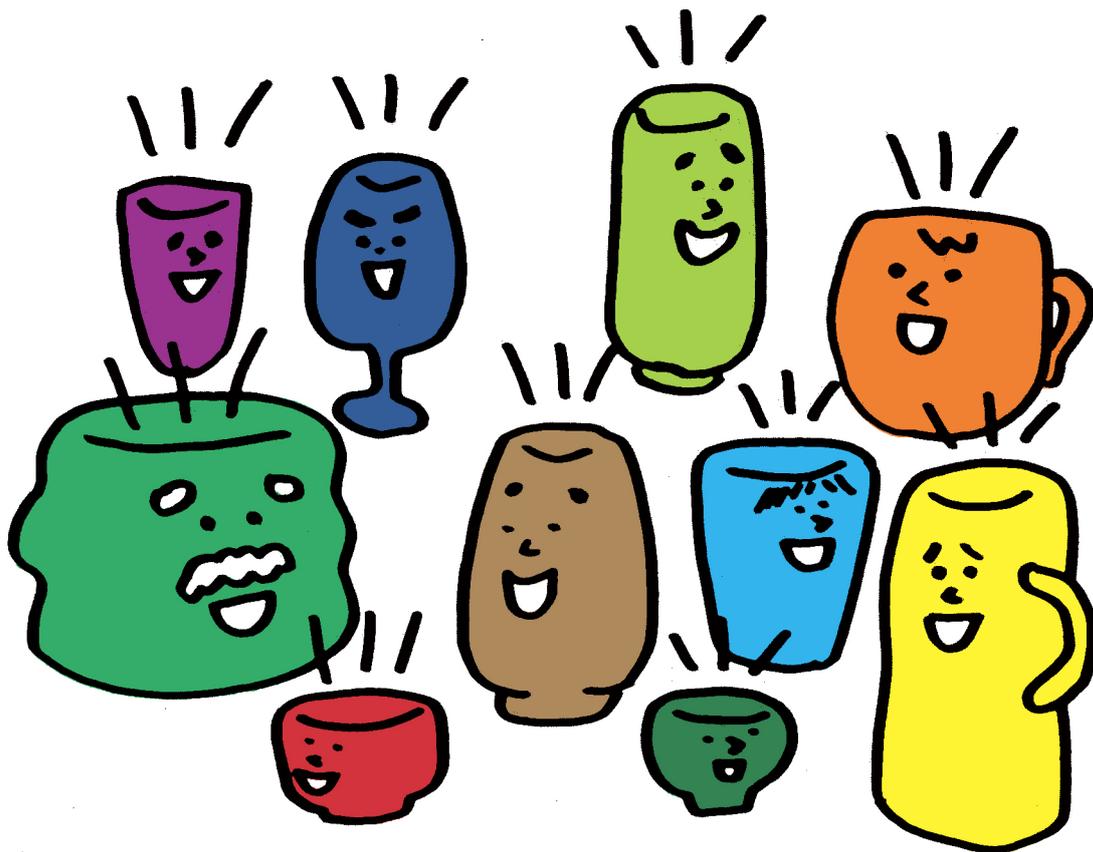
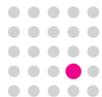


茶話会からひろがる輪





若手との対話から生まれる新たな取組

北区 道場町連合自治会

PTA などで活動する地域の若手と

まちの未来を話す場を設けると

若手有志の会が発足、様々な活動へ

一口メモ

道場町連合自治会では、PTA 等の若手 6 名に対し、まちの将来を考える「茶話会」を開催しました。この 6 名は、地域が小学校の運動場を休日利用するときの運営組織の中心メンバーでした。その半年後に連合自治会の働きかけにより、20 - 40 代の約 30 人からなる「道場みらい隊」が発足しました。

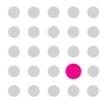
みらい隊のメンバーは、自治会の協力を得ながら、地域の文化祭への出店や運動会種目のリニューアルなど、地域の活性化に繋がるような新しい取り組みをはじめています。

また、自治会の年長者と協働し、まちづくり計画の策定に向けた議論も行っています。



明日 [^] 老若二人三脚





次世代の意見を傾聴する

北区 淡河町自治協議会

自治会の年長者たちは

地域活動に励む若手グループの声を

未来の大切な話として傾聴している

一口メモ

淡河町では、以前から豊かな発想と行動力をもって、独自の活動の企画運営を行う若い世代のグループ「淡河の明日を考える会 [淡河ワッショイ]」があります。彼らはこれまで様々な地域課題に自主的に取り組み、成果を上げてきました。

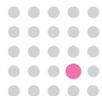
自治会の年長者は、このような取り組みを尊重するとともに、自治会組織にも位置づけられているこの若い世代のグループと議論しながら連携しています。

年長者たちは、若手の意見を「地域の未来を育む次世代の意見」として傾聴しながら、連携して地域活動に取り組んでいることが特徴です。



あて職が本職に





任期を終えた「あて職」の方への無理のない継続的な参加

西区 月が丘ふれあいのまちづくり協議会

あて職の方々に、任期終了後

ボランティア登録をお願いすると

登録が100人を超え、幅広い活動に

一口メモ

月が丘ふれあいのまちづくり協議会では、まつり等の行事のお手伝いをする「月が丘ボランティア」と、協議会の構成員として会議に毎月出席し、行事や見守り活動などの事業を計画・実施してもらう「地域ボランティア」の2種類のボランティア登録制度を設けています。

自治会・青少年育成協議会などから「あて職」で協議会委員になって任期を終えた方や、地域の活動に興味を持たれた方に、ボランティア登録をお願いしています。今では100人を超える方が登録しており、それぞれにあった活動を依頼しています。

協議会や地域活動をよく理解されていて、経験のある方に登録・参加してもらえるため、子どもの居場所づくりなど新しい事業にも取り組むことができます。

